

慶應言語学コロキウム

極小主義プログラムにおける随意性

講師: 北田 伸一 氏 (東京理科大学理学部講師)

日時: 2016年1月24日(日) 13:00-18:30

会場: 慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟 A 会議室
参加費無料 申込不要

Chomsky (1995)以降、言語を生成する計算機構の簡潔性・効率性を追究する極小主義プログラムの枠組みにおいて、随意性(optionality)は非効率的として排除されてきた。たとえば、計算機構がその計算過程に随意的な派生の可能性を含むことはありえない。一見随意的にみえる複数の派生は、計算を引き起こす素性(feature)の有無に違いがあり、真に随意的ではない(Chomsky (2000, 2001))。しかしながら、Chomsky (2004)は言語計算の根源的操作である併合(Merge)操作が自由に適用されると提案した。これにより、計算過程における併合の適用に随意性が生じることになる。この理論的背景のもとで、本発表では、(1)に示すような随意性を伴う言語現象を考察する。

- (1) a. The question (of) whether it is true or not may be raised.
b. John has (got) a blue car.

(1a)では of が随意的に挿入される。(1b)では got が随意的に挿入される。これらの随意性を伴う現象が最新の極小主義プログラムの枠組みでどのように説明されるかを議論するとともに、その理論的帰結を追究する。また、本発表の分析が言語間の線形化(linearization)の差異(語順決定に関する一種の随意性)にもたらす帰結についても検討を加えてみたい。

主催: 慶應義塾大学言語文化研究所
協力: 慶應義塾大学次世代研究プロジェクト B

<お問い合わせ先>

〒108-8345 港区三田 2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所
電話: 03-5427-1595 (事務室直通) メール: genbu@icl.keio.ac.jp
<http://www.icl.keio.ac.jp>